

画像診断報告書の予期せぬ重大所見の確認に関する多職種による医療安全対策

田中久美^{†1)7)} 岡田 靖¹⁾³⁾ 野口智幸²⁾³⁾
 福泉公仁隆³⁾⁴⁾ 与古田幸代¹⁾⁵⁾ 森田茂樹⁶⁾

IRYO Vol. 75 No. 3 (199-206) 2021

要旨

画像診断報告書の確認不足という診断関連エラーに含まれる予期せぬ重大所見 (Significant Unexpected Findings : SUF) に対する対応行動支援は、医療安全における重要課題のひとつである。国立病院機構九州医療センターではSUFを含む画像診断報告書の取り扱いについて、放射線部門・医療情報管理センター・医療安全管理部の三部門の共働体制、ならびに各診療科長の介入を加えて、画像診断報告書チェックフローを策定し実践すると共に、SUF対応状況の評価指標を定め、その集計結果を院内に周知することでSUF未対応ゼロを達成した。

キーワード 医療安全, 画像診断報告書, 予期せぬ重大所見

はじめに

近年、画像診断報告書の確認不足により、患者の治療が遅れたため転帰に重大な影響を及ぼしたとする医療過誤が報告されている^{1) 2)}。診断過程および診断結果における失敗は診断関連エラーと総称し³⁾、とくに診断の確認不足 (missed diagnosis) や診断の遅れ (delayed diagnosis) は、法的には不作為にあたる。このようなエラーに対する予防は、医療安全管理上の最重要課題のひとつである。

画像診断報告書の確認不足という診断関連エラーには、「報告書を読まない」エラーだけでなく、「患者を担当し画像検査を依頼する医師 (以下、主治医) が関心領域外の重大な所見に気づかない」エラーが含まれている。とくに後者は、予期せぬ重大所見 (Significant Unexpected Findings : SUF)^{4) 5)} と呼ばれ、医療安全における重要な課題として注目されている。さらには、SUFを認知するだけでは不十分であり、SUFに対し具体的な対応行動を実施することが求められている。

国立病院機構九州医療センター 1) 医療安全管理部, 2) 同 放射線科, 3) 同 臨床研究センター, 4) 同 医療情報管理センター, 5) 同 看護部, 6) 病院長, 7) 国立病院機構小倉医療センター †看護師

著者連絡先: 岡田 靖 国立病院機構九州医療センター 医療安全管理部 〒810-8563 福岡市中央区地行浜1-8-1

e-mail : okada.yasushi.yh@mail.hosp.go.jp

(2020年6月15日受付, 2020年12月11日受理)

Fail-safe for Significant Unexpected Findings in Radiological Reports Managed by Multi-department Safety Network in Medicine

Kumi Tanaka¹⁾⁷⁾, Yasushi Okada¹⁾³⁾, Tomoyuki Noguchi²⁾³⁾, Kunitaka Fukuizumi³⁾⁴⁾, Sachiyo Yokoda¹⁾⁵⁾ and Shigeki Morita⁶⁾, NHO Kyushu Medical Center, 1) Medical safety management unit, 2) Department of Radiology, 3) Clinical Research Institute, 4) Medical information management center, 5) Department of Nursing and 6) the Director of the hospital, NHO Kyushu Medical Center, Japan, 7) Department of Nursing, Hospital Organization Kokura Medical Center, Japan

(Received Jun. 15, 2020, Accepted Dec. 11, 2020)

Key Words : Medical Safety Management, Radiological report, Significant Unexpected Finding